

# 論 文 要 旨

学籍番号	81533610	氏 名	横川 真依子
論文題目： 伝統工芸の社会的・経済的価値の探究			
<p>(内容の要旨)</p> <p>近年、2020年の東京オリンピックに向けて、国内外から日本文化への注目が高まっている。この流れを受けて、地方創生、観光政策分野がわが国の重要政策とされ、一部の政策やメディアにおいては伝統工芸産業の潜在的可能性が注目されつつある。しかし、いずれも2020年を見据えた政策や取組がほとんどであり、伝統工芸の中長期的な持続可能性が考慮されていない。現に、伝統工芸産業はバブル期以降著しく衰退しており、近い将来には数百年続いた技術が途絶えてしまうことが危惧されている。こうした現状を受けて様々な先行研究がなされてきたが、木を見て森も見る視点で複雑に絡み合う問題構造を紐解いた研究は数少ない。また、過去全ての先行研究の共通点として、伝統工芸は残すべきであるとの前提のもと議論がなされている点が挙げられるが、現代において伝統工芸を積極的に残すべき理由は明らかにされていない。</p> <p>本研究では、衰退する伝統工芸産業の再生に寄与することを目的に、①産地調査による伝統工芸産業衰退の「根本要因」の特定と、②消費者調査による伝統工芸の価値評価を行った。産地調査では、明確になっていない産業衰退の根本要因を特定するため、8産地12品目37企業を対象に現場調査とインタビュー調査を行った。得られたデータから概念的コードを抽出し、伝統工芸産業が抱える問題構造を分析したところ、「産地」、「個人」、「社会」、「マーケティング」の4つの課題に分類できた。さらに4つの課題は、十分な利益があれば解決に導ける可能性の高い課題と、利益を得るために解決すべき課題の2つに分類された。消費者調査では、J.ラスキンを発端とする文化経済学の考え方に基づき、伝統工芸の固有価値と消費者の享受能力に着目し、調査を行った。電話インタビュー調査から消費者のタイプを3つに分類し、その仮説を基にアンケート調査を実施した。つぎに、伝統工芸の価値要素を6コンテキスト11項目に分類し、それらのなかで消費者が最も重視する要素を明らかにするため、多変量解析を実施した。結果、「ストーリー性」は「価格」に対して有意に大きいことがわかった。さらに、ストーリー性の効果を検証するため、同じ工芸品に対してストーリー性を加えた場合、価格が上がっても購入するかを検証したところ、特定のタイプの消費者において効果があることがわかった。</p>			
<p>キーワード (5語)</p> <p>伝統工芸、社会的・経済的価値、マーケティング、伝統工芸の固有価値、消費者の享受能力</p>			